

演じる

2023. 8. 23

2学期がスタートした。まもなく退職を迎えるという感慨はない。まだまだ仕事を続けるからである。かえって、多少の不安感とともに、今までとは違った展開になることへの期待感がある。とはいえ、学校の校長職を務めることができる期間が、だんだんと短くなってきた。

そこで、考えた。この2学期は、校長を演じてみようと思う。ちょっとは、校長らしくしてみようと思う。そのためには、立ち居振る舞い、言動を考えなければならない。今までも、何度かチャレンジしたことはあった。そのたびに、三日坊主で終わった。野田中学校に来てからは、最初からあきらめて自然体でいくことにした。

一昨年度、教頭としてお世話になった方が、昨年度から小学校の校長を務めている。会うたびに変わっていく。校長らしくなっていく。今では、すっかり校長の雰囲気である。他にも、校長になり、変わっていく人がいる。ポストが人をつくり、風格が備わっていく。かなり変わる人もいる。

なぜだかわからないが、私の場合は、こうはならない。仕方がないので、最終手段として、校長を演じることにした。一番は、話し方である。これがむずかしい。いつものフレンドリーさを消さなければならない。問題は語尾である。文末表現で伝わり方が変わる。相手への印象が変わる。歩き方も重要である。急ぎ足でせかせか歩いている場合ではない。ゆったりと、背筋を伸ばして姿勢よく歩かなければならぬ。

来客対応や対外的な集まりでの振る舞いも考えなければならない。いろいろ考えると疲れそうである。だが、演技をすると考えれば、また違ってくる。毎日、今日の演技はどうだったかなと振り返る。明日は、もっとよく演じようとする。いい役者を目指すのである。

演じるからと言って、今までと思考や判断が変わるわけではない。誠意ある対応、誠意は時間でありスピードであることは変わらない。即断即決を旨とすることも変わらない。そのためには、常日頃から考えていなければならない。常に最悪を想定しておくことも変わらない。

最後の半年くらいは、少しは校長らしくしたいというささやかな願望である。うまくいく日があれば、そうではない日もあるだろう。浮き沈みはあるにせよ、2学期いっぱい続けていきたい。その結果、ある程度うまくいったならば、そのまま3学期も続けようと思う。もし、案の定、うまくいかない場合は、自然体のまま3学期を過ごすつもりである。

ここまで書いておきながら、一番の問題点に気づいた。自分の中に確固たる校長像があるように実はないのではないのか。なぜそうなるのか。これからの校長は、今までの校長のようでは務まらないと考えているからである。新たな校長像を自分でつくっていかなければならない。

三日坊主でも、あきらめずに何度も三日坊主を繰り返していけば、少しは変わっていくかもしれない。2学期は役者になる。そう決めた。